

第 25 回富士山世界文化遺産学術委員会における主な意見 (11 月 28 日開催)

(報告1)今夏の富士山の状況

- ・登山者数が抑制され、弾丸登山や遭難救助件数も減ったということで、全体的に良い状況になったという報告だと受け止めた。
- ・事前登録システムの利用率について、山梨県が 40% 台、静岡県が 80% 台と差があるが、この状況でよいのか。
- ・混雑予想カレンダーの閲覧率が令和6年度と比較して 10% 以上低下しているがどのように捉えているのか。
- ・登山規制の取り組みは続けていくことが非常に重要になるので、スムーズに続けられる体制作りを目指してほしい。
- ・登山者数が減少する中で、外国人の動向や傾向はどのように捉えているのか。

(報告2)富士山包括的保存管理計画の改定

- ・第 3 章の「アトリビュート」は日本語としてあまり浸透していないため、括弧書きで“概要”や“特徴”などを加えた方がよいのではないか。
- ・民間も含めて広く関係機関に意見をもらうべきではないか。

(議事1)経過観察指標に係る年次報告書(案)

- ・良い点だけでなく、積極的に懸念点や警戒すべき状況等についても評価して、記載した方がよいのではないか。
- ・年次報告書の冒頭にその年の特徴として、新たな動向や気づきをまとめて記載するようにしてはどうか。